

VIEW

管理者は、社員に細かく言う前に一度襟を正して欲しいものです！！

6月の総点呼で所長は、「検査をする先にお客様を意識せよ。意識しているのなら確認喚呼で大きな声を出せ」「昨年度も自所起因によるヒューマンエラーが5件発生しましたが、・・・意識レベルの低いヒューマンエラーも発生しています」と訓示をしています。所長の訓示を受けて、管理者によるチェック体制はさらに細かくなっています。しかし、チェックするはずの管理者の側の方がずさんでどうしようもありません。その一部を報告します。

6月にはいって一部の社員に「点呼中はマスクを外してほしい。見苦しいから。するなら管理者に報告してくれ」と個別に言って廻ったそうです。そもそも管理者に報告したら見苦しくなく、報告しなかったら見苦しいというその感覚がわかりません。しかも言われたのは一部の社員だけです。インフルエンザが流行した時に「マスクやうがい手洗いを行って感染防止に努めて下さい」と言っていたのは誰でしょうか？

他にも、作業中に廻って「タイヤのチョークチェックが垂直に入っていない。斜めになっている」と細かなことをチェックしています。また、アンカーブロックに行くライニングのチョークチェックも「チェックが小さい」「上の線がボルトについていない」「下の線がボルトについていない」とどうでもいいようなことを問題にしています。ライニングの状態をしっかりと検査してチョークチェックが入っていれば大きさや長さの問題ないのです。

他にも、速度発電機の配線のところに巻いてあるビニールテープ（黒テープ）が2cmほど剥がれているのを見つけ処理してくれと言っています。担当検査が気に入らなかったのかよくわかりませんが細か過ぎます。2cmのテープで気になるなら他に気につけないといけないことが沢山あるのではないのでしょうか。

その他にも、6月6日、T管理者が終了点呼を行いました。終了点呼時に出勤遅延防止三原則の唱和を行っていますが、当日行う社員の名前を間違えて言い直したり、勤務時間終了までに終了点呼を終えることができずに途中解散になってしまいました。同じことが、先月の23日にもありました。

また、6月11日の作業分担表に間違いがありました。午後からB班（m）に見習いがつくことになっていましたが、作業分担表ではA班（m）になっていました。

この様に細かすぎたり、管理者らしくない言動ばかりですが、社員のチェックに血眼になる前に自らの検証を宜しくお願いします。